

有意抽出法の長所と短所

～ もっとも実践しやすい調査方法の信頼度 ～

有意抽出法は、「作為抽出法」あるいは「非確率サンプリング」とも呼ばれます。それは調査者の判断によって誰を対象に調査するのかを決めてしまう方法です。無作為抽出法と比べて時間と費用が少なくて済むため、多くの調査でこの方法が採用されています。

この有意抽出法の代表的なものが「便宜抽出^{べんぎ}」です。便宜抽出は、「収集しやすい抽出単位からサンプルを抽出する方法」で、学校でクラスや友人にアンケートに答えてもらったり、短時間でサンプルを収集しやすいショッピング・センターや繁華街で声をかけてアンケートに協力してもらうやり方がその典型です。



この方法は、時間も費用も少なくて済みますが、あまり繁華街に出かけない人や調査担当者が声をかけたくない人は除外される、つまり調査担当者によってアンケートに協力してもらえる人たちにかたよりが出てくる可能性があるため、母集団を正しく代表しない可能性が高くなります。

母集団を正しく代表しないということで、この方法による調査結果は慎重に扱われなければなりません。

例えば、ファッションに対する意識調査をするために、人通りの多い繁華街で平日の昼間に声をかけてアンケート調査をする場合を想定してみましょ。実際には、夕方、夜間にその場所を行きかう人々は、昼間とは異なるニーズや消費行動があるかもしれませんし、平日ではなく週末に行きかう人々はまた別のニーズや消費行動があるかもしれません。そのため、このような調査によってただちに結論を導き出すということは控えるべきです。